あいち国際プラザ

2026.6 No.169
AIA AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION
公益財団法人 愛知県国際交流協会
ニュースレター

表紙の一枚　「ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木（ひとつぎ）」で活動している皆さまの様子
■写真の内容については７ページの「国際交流ステーション　国際交流推進功労者表彰受賞団体」で紹介しています。

Contents

特　集　世界の祝日 …… P.2 ～ 3

■ AIA だより　協会の主催・共催事業などを掲載しています …… P.4 ～ 6
日本語学習支援基金　～令和７年度の事業報告～
愛知県国際交流協会のホームページをリニューアルしました
令和８年度（第１回）国際交流推進事業費補助金の交付事業が決まりました！・令和８年度（第２回）を募集中です
図書コーナー　新着図書のお知らせ

■ Focus on ！ …… P.7
国際交流ステーション　令和７年度国際交流推進功労者表彰受賞団体　ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木
世界の街かどレポート　オランダ（アムステルダム日本人学校　山本　淳平）

■ ようこそ！愛知の産業グローバル化を支える留学生 …… P.8

■ 編集後記・協会案内図 …… P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は 愛知県国際交流協会 賛助会員 で 検索
https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html

世界の祝日

日本には1年に16日の祝日があります。5月にはゴールデンウィークとして大型連休があり、9月にはシルバーウィークとして大型連休が発生する年もあります。さらにハッピーマンデー制度の導入により、多くの祝日が月曜日に移動し、3連休も増えました。

日本の祝日は、「国民の祝日に関する法律」に定められており、「春分の日」「みどりの日」「山の日」「海の日」など、季節、自然との共生や自然に感謝するものが多く見られます。

今回の特集では、世界の国々にはどのような祝日があり、人々がその日をどのように過ごしているのかについて、4名の方にお話を伺いました。世界には日本とはまた違った祝日の文化が広がっていました。印象的だったことを中心にご紹介します。

中国　愛知県国際交流協会　あいち多文化共生センター　安井瑞希さん

春節

中国のお正月に当たり、例年は1月下旬から2月上旬に迎えます。今年は2月17日で、その前後1週間から10日ほどが連休となりました。最近では大型連休を「黄金周（ホァンジィンジョウ）」と呼ぶことも増えてきました。

家族を大切にする文化があるため、春節に帰省しないと言うと「どうして帰ってこないの」と質問攻めにあうほどです。人口の多い中国では、この時期に多くの人が移動するため、「春運（チュンユン）」と呼ばれる大規模な帰省ラッシュが毎年話題になります。

▲春節の街の風景

春節は本家で過ごすのが習慣で、あいさつ回りは初日に父方、2～3日目に母方の親戚を訪ねます。久しぶりに会う親戚とは、就職・結婚・お見合いなどの話題で盛り上がります。日本のお年玉にあたる「ヤースイチェン」という習慣もあり、18歳になるまで年上の人からお金をもらえます。

▲春聯（シュンレン）

また、年男・年女を迎える人は災難を避けて運気を高めるために、赤い靴下や下着を身につけます。春節前のデパートでは、真っ赤な肌着や靴下が並ぶ特設コーナーが登場します。玄関には「福」や縁起の良い対句を記した「春聯（シュンレン）」を飾り、魔除けの意味を持つ赤色が家々を彩ります。

子どもの頃は、シルク地に鳥や花の刺繍が施された「チーパオ」を着ることもありました。最近では写真映えすることから、若い世代の間で「漢服」が再び人気になっています。

春節に欠かせない料理といえば餃子です。基本は水餃子で、残ったものを翌日に焼いて食べることもあります。花火や爆竹でお祝いする習慣は、復活しているところもあります。

韓国　韓国在住　ヨンジェさん

秋夕（チュソク）

旧暦の8月15日に行われる祝日は、豊作を祈り、先祖に感謝する大切な行事です。前後3日間が休日となるため連休となり、家族のもとを離れて暮らす人々も帰省し、家族や親戚とともに先祖の墓参りをします。親戚一同が集まり、食事を分かち合うのも恒例です。

▲秋夕（チュソク）にお墓参り

贈り物としては、日本のお中元のように、生活用品のセット、ツナ缶や油のセット、高級な干し柿、そして現金を贈るのが一般的です。

▲トゥック（お餅のスープ）

先祖供養のお膳「茶礼床（チャレサン）」は、近年はかなり簡略化され、10種類前後の料理を並べてシンプルにお祝いする家庭が増えています。左の写真はトゥック（お餅のスープ）で、その他のおかずは家庭によって異なりますが、ジョン（韓国風の焼き物）、キムチ、松餅（ソンピョン）、ナムルは欠かせない定番です。

「松餅（ソンピョン）」は、うるち米の粉を水で練って半月型にし、松葉を敷いた蒸し器で蒸す伝統的な一口サイズのお餅です。中身は地域や家庭によってさまざまですが、豆、きな粉、ごま砂糖が一般的です。私の家では「ごま砂糖派」です。松餅だけは家族全員で集まって作り、誰が一番きれいに作れるか競い合うのが習わしです。

▲贈り物の干し柿

昔、いとこが恐竜の形の松餅を一生懸命作ったものの、厚みがありすぎて火が通らず、結局食べられなかったという思い出もあります。

家族や親戚が集まると、伝統的な遊びとしては「カンガンスルレ」がよく知られています。夜に外で手をつないで輪になり歌いながら遊ぶものですが、最近はイベントで見かける程度になりました。その代わりに、韓国の伝統的なボードゲーム「ユンノリ」や、「ファトゥ」で盛り上がることが多くなっています。

カンボジア

「愛知の産業グローバル化を支える留学生」のコーナーでインタビューした
ペン　ブントーンさん

カンボジアの正月（クメール正月）

カンボジアの正月は一年で最も重要な祝祭で、毎年4月14日から16日にかけて盛大に祝われます。この時期、人々は寺院を訪れ、僧侶に食事を捧げるとともに、亡くなった先祖や親族の供養を行います。午前中に参拝を済ませた後、午後には水掛けや綱引き、伝統的なリズムに合わせたダンスなど、地域に根付いた遊びを楽しみます。また、正月の連休は、遠方で働く人々が故郷へ帰り、家族と過ごす大切な団らんの時間にもなっています。

カンボジアでは、新年にその年を司る「新年の女神（テヴェダー）」が地上に降りてくると信じられています。そのため、新年を迎える前には家の隅々まで掃除し、花や色鮮やかな電飾で美しく飾り付けます。家の前には祭壇を設け、飲み物や果物、香水、花などを供えて女神を迎える準備を整えます。女神が降臨するとされる時間には、家族全員が集まり、線香やろうそくに火を灯して家内安全と幸福を祈ります。

綱引き（チュン・プレアッ）は単なる力比べではなく、共同体の団結を象徴する重要な文化です。勝つためには参加者全員が心を一つにし、呼吸を合わせて綱を引く必要があります。この遊びは親睦を深め、健康維持にも役立つほか、先祖から受け継いだ文化を守る行為でもあります。カンボジアの綱引きは2015年にユネスコ無形文化遺産に登録され、国家の誇りとして大切に受け継がれています。

▲新年の神様を迎えるための飾り

ベトナム

機関誌 No.165「愛知のものづくりを支える留学生」のコーナーでインタビューした
ズオン・ティ・ガットさん

テト

ベトナムは北部・中部・南部の三つの地域に分かれ、お正月（テト）の過ごし方にも地域ごとの特色があります。ここでは、北部出身の私の経験をもとに紹介します。テト前の街は活気にあふれ、テト用品を売る屋台や店が並びますが、テトが始まると街は静かで穏やかな雰囲気に変わります。道路は空き、多くの店が休業しますが、落ち着いた平和な空気が漂います。

テトの準備では、桃の木、ミッキーマウスの木、金柑の木などの縁起物を飾り、家庭によってはバラ、ユリ、菊、スモモの花も選ばれます。家は提灯や飾り、イルミネーションで華やかに整えられ、祖先へのお供えとして料理や果物を準備します。来客を迎えるためのお菓子やお茶も欠かせません。街は赤と黄色を基調とした装飾で彩られ、家族が集まると最初に交わすあいさつは「Chúc mừng năm mới（チュック・ムン・ナム・モイ）新年おめでとうございます」です。久しぶりに集まった親戚同士で、この一年の出来事や近況を語り合います。日本と同じように、ベトナムでも新年には寺院のような場所を訪れます。テトに欠かせない料理は Bánh chưng（バインチュン）で、祖先へのお供えとして三日間の食卓に並びます。ほかにもベトナムハム、茹で鶏、焼き肉などがよく食べられます。また、日本のお年玉にあたる Lì xì（リーシー）の習慣があり、子どもや高齢者にお祝いのお金を渡します。さらに、テトは高齢者の長寿を祝う Mừng thọ（ムン・トー）の時期でもあり、節目の年齢には地域で祝賀会が開かれ、家庭でも盛大にお祝いします。正月の三日間が終わると、各家庭では感謝の儀式として、お供えしていたバインチュンや果物を下げ、故人のために紙のお金を燃やします。

▲テト用品を売る屋台やお店

▲神様（財神・土地神）を祀る祭壇

▲来客を迎えての食事

▲バインチュン もち米や豚肉を葉で四角く包む

日本語学習支援基金 ～令和７年度の事業報告～

日本語指導が必要な児童生徒数が全国で一番多い愛知県では、県と地元経済界などが協力して平成 20 年度に「日本語学習支援基金」を創設し、地域社会全体で外国につながりを持つ子どもたちの日本語習得促進と地域での居場所づくりを進めてきました。令和 4 年度には第 3 次造成をし、令和 8 年度まで継続して実施しています。

■事業内容

日本語教室への支援	外国人学校への支援
①日本語教室運営への支援 ②キャリア・地域交流支援への助成	①日本語指導者の雇用助成 ②日本語学習教材の給付

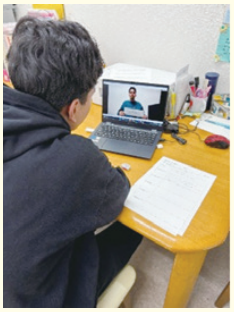
■令和７年度の助成認定団体について

令和 7 年度は、38 団体 58 の日本語教室（うち、新規 3 団体）と外国人学校 4 校を助成認定し、日本語教室では延べ 38,629 人、外国人学校では延べ 11,687 人の児童生徒の日本語学習を支援しました。また、外国人学校へは、授業で使用するための日本語学習教材（テキスト、ドリルなど）183 冊の給付も行いました。

令和 7 年度に新たに助成対象となった団体は次のとおりです。

団　体　名	教　室　名	場　所	日　時	対　象
特定非営利活動法人 アジャスト	さくら教室	犬山市	週 3 回（月・水・金） 19：00 ～ 21：00	中学生～高校生
Japanese Language Volunteer in Nagoya	金山ティーンズクラス	名古屋市熱田区	週 1 回（土） 15：00 ～ 16：00	小学生～中学生
	万場ティーンズクラス	名古屋市中川区	週 1 回（日） 10：00 ～ 11：30	
清須市国際交流協会	日本語ひろば	清須市	週 1 回（日） 10：00 ～ 12：00	幼児（年長）～高校生

■基金はこのような活動にも使われています！



名古屋市内で活動する「DONDON にほんご教室をサポートする会」では、学習支援に加え、生徒が自分の将来について考える機会づくりにも力を入れています。

昨年度の活動の中で、ネパール出身の先輩の協力を得て、後輩が進路をより深く考えられるよう、進学・進路支援につながる 10 本の動画教材を作成しました。ロールモデルとなった先輩は、中学 1 年時に来日し、外国人特別枠での県立高校入試を経て大学へ進学した後、現在は社会人として働いている方とのことです。

同会の運営する「DONDON にほんご教室」では、これまでも先輩の話を聞く機会は設けてこられたようですが、参加できない生徒がいたり、一度きりで終わってしまうという課題がありました。そこで、今回は先輩に 10 項目の質問をし、それぞれネパール語で回答してもらい、その内容を動画として記録したとのことです。

内容としては、“自己紹介、来日時の経験、日本語学習、高校受験、高校生活、大学進学、就職活動、後輩へのアドバイス”等、進路選択に役立つ内容が網羅されており、動画として残すことで、生徒が必要なタイミングで繰り返し視聴できる教材として活用されているとのことでした。

なお、当協会でも令和 7 年度にロールモデル体験談動画「後輩に伝えたい！わたしたちの進学体験談」を作成しました。DONDON にほんご教室でもご活用いただいているようです。みなさまもぜひご参照ください！

→ https://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/j/sodankai/tebiki.html

愛知県国際交流協会のホームページをリニューアルしました

このたびホームページをリニューアルし、より見やすく使いやすいデザインに刷新しました。スマートフォンやタブレットにも対応しています。

また、利用者のみなさまが目的に応じて必要な情報へアクセスできるよう、構成を見直しました。対応言語も20言語に拡大し、海外の方々にも快適にご利用いただけるよう、各言語での情報提供を充実させています。

これからも、みなさまに役立つ情報を積極的に発信し、より使いやすいホームページを目指して取り組んでいきます。

外国人および支援者のみなさんへ

生活相談（外国人の方のお悩み）
- 生活上のお困りごとに応じた相談先を紹介しています
- 外国人支援を担当する自治体・団体の方も相談窓口を確認できます

日本語学習支援
- 愛知県内の日本語教室を検索できます
- 日本語教育に関する講座・研修を案内しています

イベント・交流団体検索
- 外国人の方や支援者向けのイベント情報を検索できます
- 国際交流や支援活動を行う団体を検索できます

国際交流・多文化共生などに関心があるみなさんへ

参加したい
- 多文化共生や国際理解に関する講座・研修の情報を確認できます

利用したい
- 国際交流に役立つ資料や図書、施設の利用案内をご覧いただけます
- イベント情報もこちらからご覧いただけます

助成・支援情報
- 国際交流・協力活動を支援する補助金や基金の情報を確認できます

▲愛知県内日本語教室検索

▲イベント検索

ぜひ一度、新しくなったホームページをご覧ください

URL：https://www2.aia.pref.aichi.jp/

令和8年度（第1回）国際交流推進事業費補助金の交付事業が決まりました！

民間国際交流団体及び国際交流活動に取り組む民間の非営利団体を対象（要件あり）に、補助金を交付しています。

補助対象は、地域住民と外国人との交流事業、地域住民の国際理解推進のための普及啓発事業、在住外国人に対する支援等、多文化共生社会の実現に資する事業、その他、地域の国際交流の推進に寄与すると認められる事業などです。今年度の第１回となる国際交流推進事業費補助金の審査会を令和８年３月23日に開催し、11団体の事業が採択されました。

今回採択された事業には、姉妹都市との交流事業や外国の文化を体験し、外国の方には日本の伝統文化を体験してもらえる国際交流イベント、若い世代同士の国際交流を促すプログラムや世界の食の多様性を知るイベント等もあります。具体的な事業内容は、別途当協会のホームページ「イベント情報」でもお知らせしますので、ぜひ、多くの皆さまにご参加いただければと思います。

令和8年度（第2回）を募集中です

なお、今年度の第２回を、６月30日（火）必着で募集中です。申請を希望される場合は、当協会ホームページに詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

【URL】　https://www2.aia.pref.aichi.jp/kikaku/j/joseishien/hojokin.html

ホームページ
QR コード

図書コーナー新着図書のお知らせ

あいち国際プラザ（愛知県三の丸庁舎）２階には、どなたでも自由に利用できる図書コーナーがあります。

蔵書は２万２千冊以上。日本語学習の本、多文化共生に関する本、世界の国々を紹介する本、日本を外国語で紹介する本、外国語の絵本など、国際交流に役立つ資料がそろっています。

月曜日も開室しています。

小規模ながらも落ち着いた雰囲気で、学習机もあり、静かにゆったりと過ごせる空間となっています。

新着図書 59 冊が入荷しました

【新着図書一例】

- 『ロールモデルがいない君へ』キリーロバ・ナージャ
- 『中学生が多文化共生について本気で考えてみた』
  山﨑寛己（著）釜田聡（監修）
- 『移動する子どもたちのことばの教育』田中雅子、坂本光代
- 『日本語どんぶらこ』飯間浩明（著）金井真紀（イラスト）
- 『介護･福祉の現場でともに学び､働くための外国人スタッフの理解』
  ヴィラーグ ヴィクトル
- 『続テルマエ・ロマエ 1、2』ヤマザキマリ
- 『大人も知らない？サバイバル防災事典』サバイバル防災研究会（編集）国崎信江（監修）

活字離れが進む時代だからこそ、静かな空間で本と向き合う時間を楽しんでみませんか。「ちょっと見てみようかな」そんな気持ちで、ぜひ図書コーナーへお越しください。皆さまのご来室を心よりお待ちしております。

県内に在住、在勤、通学している方は本の貸し出しができます。

【貸出期間・冊数】15日間・５冊まで　　**【開室日・開室時間】**月～土曜日 10：00 ～ 18：00
（祝日、年末年始・図書整理期間を除く）

Focus on! 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPO などの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木（ひとつぎ）（令和７年度国際交流推進功労者表彰受賞団体）

刈谷市一ツ木町の住宅街の一角に、言葉や国籍の垣根を越えて人々が集う場所があります。「ワールド・スマイル・ガーデン（ワールデン）」です。私たちは 2013 年、愛知県国際交流協会および刈谷市の支援のもと発足し、「農」という共通の体験を通じて、多文化共生と地域コミュニティの活性化に取り組んできました。

主な活動は、月に一度の合同作業です。ここでは難しい言葉は必要ありません。土に触れ、種や苗を植え、共に汗を流し、収穫の喜びを分かち合う、このシンプルな営みこそが、互いを尊重し合い、交流を深めるための「共通言語」となるのです。国籍も母語も異なる参加者が、笑顔とともに肩を並べて作業するその光景は、ワールデンの日常そのものです。

▲大根の収穫

2018 年からは住民主体の運営体制へと移行しました。新型コロナウイルス感染症という困難にも直面しましたが、この逆境に負けず、参加者一人ひとりが主体的に関われる場であり続けるため、試行錯誤を重ねながら活動を継続してきました。

また、年 4 回の季節イベントでは、「特別な時間を共有する喜び」を大切にしています。自分たちで育てた野菜や持ち寄った料理を囲み、笑顔で語り合うひとときは、まさに誰もが自分らしくいられる“サードプレイス”そのものです。

▲さつまいもの収穫

現在、ワールデンは新たなフェーズを迎えています。発足当初の地元住民による「血縁」「地縁」を基盤としたつながりから、理念に共感して集う「知縁」へと広がり、世代交代が進みました。さらに地元の中高生や大学生ボランティアも加わり、多国籍・多世代が交わる豊かなコミュニティが育まれています。

このたびの表彰を励みに、これからも「みんなの笑顔が実る場所」であり続けられるよう、挑戦を重ねてまいります。そして、この取り組みが、地域から全国へと広がっていくことを強く願っています。

Focus on! 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

オランダ（アムステルダム日本人学校　山本　淳平）

アムステルダム日本人学校に赴任して以来、運河や風車など美しい景観に包まれたこの地で、子どもたちと共に学ぶ日々に大きな喜びと充実感があります。本校には林間学校や現地校交流など多くの行事がありますが、中でもそのスケールに驚かされたのが、年に一度の「在オランダ日本人合同運動会」です。

▲在オランダ日本人合同運動会の様子

本校のみならず、オランダ各地の日本人学校や補習校、現地校やインターに通う日本人の子どもたちとその家族が一堂に会します。来場者が二千人規模となるこの行事で、本校は運営の中心的な役割を担っています。大規模な運営を支える責任感や準備の苦労は小さくありませんが、オランダ中の仲間が集う場を自分たちで創り上げる経験は、児童生徒や教職員にとって、日本人としての繋がりを再確認できる大きな誇りとなっています。

また、本校の生徒たちの主体性と実行力にもいつも驚かされています。人数こそ多くはありませんが、その分、学年を問わず互いを思いやり、高め合う土壌があります。私たち教職員も彼らの自由な発想を尊重し、伴走しながら、生徒が「今までにないもの」を創り上げる活動を積極的に支えています。

▲生徒会が作成した学校オリジナルグッズ

象徴的な事例が、昨年度、生徒会が中心となって始めた「学校オリジナルグッズ」の制作販売です。「愛校心を高めたい」という願いから、生徒たちは全校アンケートを行い、ウェブショップを自身で構築しました。さらに教職員や PTA へ自らプレゼンテーションを行い、協力を得ながら進めていきました。また、「中学部の絆を深める機会を創りたい」と、これまでなかった文化祭をゼロから立ち上げ、企画・構成を自分たちで成し遂げました。前例のない課題に対し、周囲を巻き込み主体的にやり抜いた生徒たちの素敵な姿には、本当に驚かされました。

これからも、日本的な教育の良さとオランダの風土を大切に、子どもたちが自ら未来を切り拓いていけるような教育を実践していきたいと考えています。

ようこそ! 愛知の産業グローバル化を支える留学生

愛知県では、2013年度以降、アジア諸国からの大学院レベルの留学生を受け入れ、さらに県内企業への就職を促すことにより、全国一を誇るものづくり産業を支える人材の確保に努めています。このコーナーでは、愛知県の奨学金制度を利用し、県内の大学で学んでいる留学生の皆さんを紹介しています。

名古屋経済大学 大学院　2年生　カンボジア出身　ペン　ブントーンさん

◇なぜ、愛知県を留学先に選んだのですか？

2019年に初めて日本を訪れ、名古屋にある大学で2週間の夏季セミナーに参加したことがきっかけです。その際、愛知県はとても発展しており、街も綺麗だと感じました。また、出会った日本人がとても優しく、温かい印象を受けたため、「もし日本に留学できたらぜひ愛知県で学びたい」と思うようになりました。

◇愛知県の気候は、カンボジアと比べてどうですか？

カンボジアは1年が乾季と雨季に分かれており、4月には気温が40度まで上がることもある非常に暑い国です。それに比べると、日本の夏も暑いですが耐えられる範囲だと感じています。特に日本の緑が豊かな春が一番好きです。

◇大学での研究で大変なことは何ですか？

日本の法律や制度を理解するために、日本語で書かれた先行研究や法律の資料を大量に読まなければならないことが一番苦労します。専門用語や知らない漢字がたくさん出てくるため、読むのに非常に時間がかかります。

◇日本語をどのように勉強しましたか。現在の勉強方法はどのようにしていますか？

カンボジアの大学に入学してから『みんなの日本語』のテキストを使い、日本語の勉強を始めました。最近では、YouTubeで日本のニュースを見ながら、日常生活や授業で使う、きれいな日本語を学んでいます。

◇今後の目標を教えてください。

一番の目標は、大学院を卒業した後に日本で就職して働くことです。そのために、研究と並行して日本語能力試験のN1合格を目指しています。日本の就職活動特有の履歴書の作成、特に手書きで書かなければならないことが大変だと感じています。キャリアセンターの先生に相談しながら、履歴書の準備や会社説明会への参加を進めています。

将来的にカンボジアへ帰国することがあれば、日本で学んだ経験を活かして母国に貢献したいと考えています。

これから日本に来る後輩へのメッセージ

日本で大学の授業を受けるのであれば、日本語が十分にできないと、大学での講義を理解し、ついていくことが非常に難しいため、事前に日本語をしっかりと学んでおくことが最も重要です。

協会案内図及び交通案内

地下鉄名城線「名古屋城」駅5番出口より徒歩5分
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅1番出口より徒歩10分

編集後記

今年はいよいよ、ここ愛知でアジア・アジアパラ競技大会が開催され、海外から多くの方が来日されます。愛知の魅力を知ってもらいたいですし、交流も増えたらと思います。今回の特集で世界の祝日について、その国の方々にインタビューをしましたが、へえー、そうなの!と驚くことばかりでした。私が体験したこの驚きを、ぜひみなさまにも感じていただきたいです。(加藤)

開館時間案内

開館時間　月曜日から土曜日　10：00～18：00
（金曜日は10：00～20：30）
休 館 日　日曜日、祝日、年末年始（12／29～1／3）

編集・発行

令和8年6月15日発行
公益財団法人愛知県国際交流協会

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1（愛知県三の丸庁舎内）
TEL：052-961-7903／052-961-8744
FAX：052-961-8045
URL：https://www2.aia.pref.aichi.jp/

＊本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登場する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではございません。